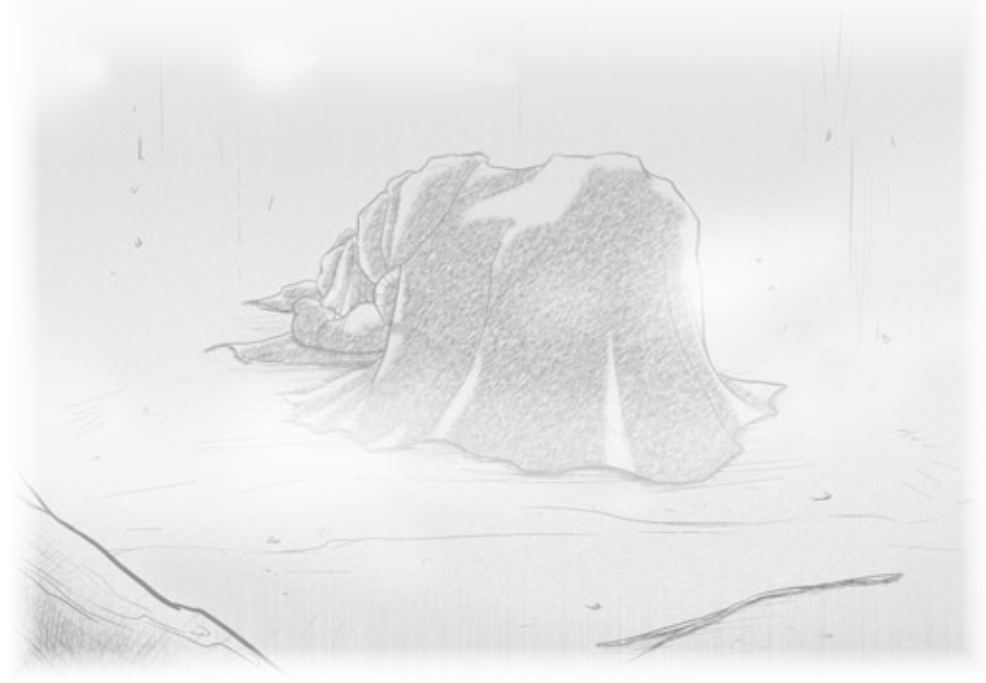


そこにあったのは、あの魔導書だった。

一つの焦げ跡すらもなく、まるで無傷だった。

それがこの本の持つ魔力なのか、それとも彼がこの本を：家族の思い出を消し去ることを拒んだからなのか。

泣いた。
かき抱き、ただ泣いた。
圧倒的な喪失感に、泣いて、泣いて吠えるより私には、成す術がなかった。



土のスカルミリョーネ
Scarmiglione of Earth
1